



次節情報

関東リーグ第20節

11月10日(土) Kickoff 14:00 vs 東京国際大学

アクセス

○《フクダ電子アリーナ》

TEL:03-3830-1850 (本連盟にご連絡下さい)

〒260-0835

千葉県千葉市中央区川崎町 1-20

・JR 京葉線・外房線・内房線「蘇我」駅より、徒歩 8 分

週刊 ア式

OFFICIAL MATCHDAY LEAFLET

Waseda University Association Football Club

【Vol. 19】2018年11月4日 発行

2018年度 関東リーグ 第19節

早稲田大学 VS 筑波大学

どうした早稲田。首位を独走するチームの姿は見る影もなく、前半だけで6失点を喫し大敗した前節。1勝することの難しさ、リーグ戦の厳しさを改めて突きつけられる結果となった。迎える今節は、前期苦しみながらも後期7戦6勝と怒涛の追い上げを見せ、2位につける筑波大学との対戦である。この一戦の結果は優勝を大きく左右することになるだろう。今一度全員でドライブするというチームの原点に立ち返り、昨季王者との天王山に挑む。

PICK UP PLAYER

独特のリズムでボールを前線に運び、一点が勝敗を左右する局面でゴールを奪ってきた早稲田の救世主。技術だけでなく、前線からの献身的な守備で早稲田らしさを体現してくれる。今節も食欲にゴールを目指し、チームを勝利に導いてくれるだろう。

藤沢和也

MF 3年

早稲田実業学校高等部





今

季の早稲田はメンバーを固定せず、いわば賭けとも言える采配で勝ち抜いてきた。誰が出場しても遜色なく活躍できるのは、彼のチームマネジメント能力があつてこそであろう。スポーツ推薦で入学するも怪我に苦しめられてきた四年間。蓮川雄大が、抱える苦悩それに伴う大きな変化を語る。

「……チームマネージャー(TM)として練習を作る上で意識していることは？」

試合で出た課題とか、今のチームの課題をどう改善していくかをメインに考えている。自分はコーチの資格を持っているわけじゃないから、今までやってきたトレーニングや、「これいいな」と思ったメニユーを集めて、練習に組み込んでいる。今はBチームでも平岡(四年)と

か春日(四年)が協力して動いてくれているから、そことうまく連携している。

――外池監督について

俺が一番コミュニケーションを取っているとと思うけど、いい意味でテキストな人、この言い方やばいかな？(笑)いい意味でテキストで学生に任せてくれることが多いから、俺の意見がすぐく通っているって感じているし、外池さんとスタッフがというより、学生が感じていたり思っていることを一番に、練習とかそれこそメンバー選考にも反映させてくれる。それは去年までにはなかったところだし、うまくいっていると思う。

――試合のメンバー選考も担っているのですか？

そう。でも最終決定はあくまで外池さんと小柴さん(総監督)、その他のコーチングスタッフの判断。俺は学生からの話を、試合に出ているメンバーからも、それ以外のメンバーからも聞いた上で、選手側の意見として外池さんに伝えている。それを聞いた上で最終的に外池さんがメンバーを決めている。最初は遠慮をしていた部分もあるけど、試合を重ねれば重ねるほど、思ったことを全部伝

えることができってきた。例えそれが外池さんの意見と真逆であっても俺は伝えるようにしているし、そのコミュニケーションをとればとるほど関係性がよくなっていると感じている。

――怪我でプレーができないことへの葛藤

俺が大学に入ってプレーできていた期間は、一年の後期と二年の後期だけで、トータルすると一年くらい。あとはずっと怪我人という立場だった。最初は、特に一年の時とかはサッカーだけやっていればいいやっという感じだった。だけど二年の後期に試合に出させてもらったときから、やっぱり責任をもってやっていかなければいけないと感じた。二年の時のリーグ戦が終わって十二月に怪我した時に、「あ、自分このままだったらやばいな」と感じて、そこからチームへの関わり方とか選手への関わり方を変えていった。結果的に怪我ばかりで、四年間ではなかなか結果を残せなかったけど、まだプロになるっていう夢に関しては諦めていないし、そこに向かっていかなきゃなって感じているから、今やっていることを生かしていければなど思っている。

――四年生から「ピッチ外では一番ふざけた奴」という話が出ていますが……

オンとオフの切り替えは意識している。もともとユース出身だし、サッカーと私生活を別に考えているから、ピッチ外では俺は楽しくやりたい。そういうところは他の人からするとふざけてるって思うかもしれない。だけどいい意味でチームを和ませたり、後輩と関わったり、特にTMになったからそういう機会も増やしていけないといけないなって思っている。なんか怖い先輩だなんて思われるより（もちろんスイッチはいったときはそういうことあるかもしれないけど）基本はラフに話しかけたりしてもらえような雰囲気を作りたいなって思っている。

-----逆オンの時意識したこと

自分の発言や行動を、例えば強く言った言葉とか、その他の自分の行いを、後輩から見るとこの人だったら納得できると思ってもらえるように意識している。あとはなるべく具体的に言うようにしている。ピッチに入った時は俺の今までの経験をベースに、選手たちに、特にBチームの選手たちにはアプローチしている。実際に怪我でプレーできない俺が、コートではない俺がどのように伝えるかがすごく難しい。そこでの葛藤もあるけど、俺が伝えてマイナスになることはない

思うから、なるべくオンの時は伝えようと努力している。

-----四年間の振り返りと残りのア式への思い

悔いが残らないかって言われたら悔いは絶対残る。スポーツ推薦で来てるわけだからサッカーの面でもっと貢献しなきゃいけなかった。だけど大学に来たからこそ得られたこともある。今までは自分ベースで考えていたけど、今は周りへの影響を考えたり、他人に干渉するようになった。俺は大学に来たことをポジティブに捉えたいと思ってるし、実際に変わることもできた。残りインカレまで含めたら二か月弱だけど、最後にこのチームでタイトルをとって、笑って卒業したいです。

順位表(第18節終了時点)

1	早稲田大学	39
2	筑波大学	33
3	明治大学	29
4	順天堂大学	28
5	法政大学	28
6	駒澤大学	26
7	流通経済大学	26
8	東洋大学	24
9	桐蔭横浜大学	22
10	専修大学	22
11	東京国際大学	15
12	国土館大学	8



Daisuke Takaoka

先

頭に立ち、引っ張り続ける主将岡田に対し、後ろから支えることに重点を置いた、副将高岡大翼。浪人生を経て、熱き思いと共にア式に飛び込んだ彼は、誰もが慕う男となりア式を巣立とうとしている。高岡大翼は、ここで何を掴み、何を思い、そして歩みを進めるのか。彼の四年間を紐解いていく。

-----ア式に入った理由

広島皆実高校でキャプテンをやっていたんだけど、新人戦を逃してインターハイでは決勝でボコボコにやられて、歴代最弱だって言われて、「うわーもうどうしたらいいんだろう」って悩んでいた時期があった。そんなメンタルのきつい時期に早稲田の練習に参加させてもらった。その前年に早稲田がインカレで優勝して

いたから大学の中で一番強いんだろうなあって思ってきたんだけど、本当に俺の中でその練習参加が衝撃的だった。ここには代表とか全国優勝とかそんな経歴の人がたくさんいるのに、そういう人たちが一瞬も手を抜かずに本当にぶっ倒れるくらい練習を、勝負を、こだわっている。練習生の俺に気を使うこともなく、本気でプレーしてくれる。その雰囲気は本当の本気の基準を教えてくれた。それで強いチームに行きたいなって思ったし、まずは自分のチームを変えなきゃいけないと思った。本当の本気をチームに持って帰って、それを自分が一番に体現した。周りには鬼になって要求したし、「すげえ嫌われてたんだろうな」って思う。だけど、そのくらい本気でやったら、インハイ決勝でポコポコにされた相手に勝って全国大会を決めることができた。その時に早稲田行ってなかったら、来れなかったなって思って、「俺は早稲田に行きたい、今度は自分が本気を感じてもらえるような選手になりたい」って思った。だから受験をしたけど、落ちてしまった。一応他に受かった大学はあったけど、そこに行くか早稲田に浪人するかをすごく迷った。正直プロになりたいって当時は思っていたし、「そのまま大

人するってことはその道がある程度諦めなきゃいけないんじゃないか」って悩んだけど、人生一回きりだし、「本当にやりたいことってなんだろうな」って考えた時に、やっぱり早稲田にいて自分が活躍して恩返ししたいって思って浪人を決めたんだよね。奨学金も全部俺が返すから早稲田に行かしてくれて頼んで、一年間めちゃくちゃ勉強して、それこそ十時間以上毎日勉強していた。もう頭おかしくなるよね(笑)

-----浪人でサッカーを目指している方々へのメッセージ

ずっと辛いと思う。ずっと勉強してボールなんて滅多に触らない生活になる。だから正直早稲田に来た時はすごくきつかった。動いていた自分のイメージや技術はなかなか戻らないし、やっと動けるなって思ったのも半年くらい経ってから。自分のイメージと実際の状態の間にすごいギャップがあって、しんどいし大丈夫かなって感じると思うけど、我慢強くやっていれば意外と大丈夫。俺は浪人したことを関東リーグに出れない言い訳にしたくなかった。早稲田の先輩で浪人でもプロに行った人もいるし、それをみて俺は入ってきたから、浪人したくらいでサッカーがダメになるというのは全くない。だからまずはその大学に入ること

をしっかり果たすことが俺は大事だと思う。浪人は他の人が経験していない辛いことを経験しているし、その大学への思いも強いからその分強くなれると思う。

-----「上の歳を意識した」とは？

逆に意識しないようにしていた。最初はやっぱり年も上だったし、キャプテンもやっていたし、そういうちょっとしたプライドがあって、一個下と対等に過ごすことに違和感を覚えた。だけどそんなの実際どうでもいいなって思った。サッカーなんて年齢は関係ないし、浪人なんて早稲田にはいくらでもいる。だから逆に俺は一個上だからまとめ役をやるうとかそういうのを意識するのをやめた。もうこれが今の仲間で、この仲間と目標に向かって頑張りたいうって思ったから、意識しないようにしていた。

-----副将を決意した理由

岡田がキャプテンと決まったときに、チームをまとめていくとか、一つの方向に向かわせるとか、そういう役割が必要だと思った。副将という役割にイメージが湧かないと思うけど、じゃあ岡田がキャプテンで相馬が上手いから副将で、とは俺らの学年は考えなかった。岡田って今までキャプテンをやったことはないけど、すごく発言力があるし、一番前を突っ走る人。そういう人がキャプテンにな

るなら、それを後ろから支える副将が必要だと思った。岡田がチームを引っ張る上で、後ろの方が見えなくなる時があるかもしれない。だから俺はそこをまとめの奴が必要だと思ったし、チームのバランスとか目標に向かってベストなのは俺が副将になることだと思った。

-----副将として意識している点

意識していることは主将のサポートという面。岡田にチームのことや、サッカーの面、その他いろいろなことが起こった時に、それを俺が横で支えるということ。一年から四年までが本場に応援し合える環境なのか、高め合えるチームなのか。そういう全体的な空気を感じるのが俺の役割だし、チームが動くタイミング、例えば新しいことをする時、ミスが起こった時、その後どうしていくのかを話し合う時に、チーム全体の空気を見た中で意見するようにしている。だから一概に一年生がミスをしたから走らせるとか、そういうことじゃなくて、今一年生にこんな課題があるから今は様子を見ようとか、最近成長している部分もあるから一回認めてあげようよとか、みんなが、「ん？」って思うことをなるべく減らせるように話をしていかな。

-----途中出場のメンタリティ

もちろん最初から出たいという気持ちはある。それでも途中出場やベンチにいる時に意識していることは、自分に求められている役割を全うしてチームを勝たせるということ。俺が入る時は、試合に勝っていて、最後までリードを守りきって手堅く勝ちたい時だと思っている。まずはそれを果たせるように準備をするし、ベンチにいる時は試合の展開とか相手の特徴を見て、自分が入ったらどういうプレーが求められるのかとか、相手がどういう特徴だからこういうことしなきゃいけないとかを考えている。あとはベンチワークのところ、スタメンだけじゃなくて、ベンチにいる選手も試合に出た時に活躍できるように、士気を高められるような声かけは意識しているかな。

-----四年間の振り返り

四年間の振り返りか、難しいね（笑）いろいろあったからな。でもすごく成長できる環境だなと思う。一年生からすぐに試合に出られるわけではないし、今まで自分がやってきたことが通用しない時が結構多かった。あとは自分の方が試合に出れるはずなのという嫉妬心とか、でも出れないのはなんでだろうとか、すごい自分と向き合う時間が多い四年間だったかなあって思う。その時間がすごく

多くて、辛かったししんどいこともあったし、もう嫌になることがいろいろあるけど、四年になって思うことは、それでもやんなきゃだめってこと。まだ今も悩んでいることはあるけど、そういうのを全部乗り越えたあとに自分の納得いく結果を掴まないと、ここにいる意味はないんじゃないかなと思います！



変革の立役者

蓮川 × 高岡

-----お互いの印象

蓮川 くそまじめ、くそまじめやろう

(笑) まあでも一年の時とかに比べると、俺たちがふざけていたらのもってきてくれることが増えたなどは感じる。最初は全然いじったりできなかったけど、最近はそういうのもできるようになってきた。

高岡 おふざけやろう笑

蓮川 みんな同じ事言うじゃん(笑)

一見TMだしコーチもやってるしすごそうじゃん?言うこともしっかり言ってる。でも実は四年の中だったらいつもふざけてるって感じ(笑)

蓮川 ちゃんとさっきオンとオフの切り替えて言ったからね(笑)

-----早稲田は大きく変革を遂げています
が、何が一番変わったと思いますか?

高岡 みんながいきいきしているかな。今までだったらみんな真面目にやるとか一生懸命にやることだけがベースになっていたけど、今は一年生から四年生まで

がいろんな役職に関わっているし、練習の雰囲気とかも柔らかくなったからそういうところがすごい変わったかなと思う。

蓮川

やっぱりあれじゃない?スタッフとのコミュニケーションが増えたことはすごく大事かなって思うよ。スタッフとサッカー的な話もできるし、ピッチ外で起きたことに対してもしっかりコミュニケーションをとり、学生の意見が今までよりも強く反映されている。多分今までは学生が思っていたこともスタッフに伝えられないとか伝えたらまずいんじゃないかみたいな空気があったけど、今年はまず伝えた上で外池さんがどのように判断するのか、となっているからそこは今早稲田の新しい伝統が出来つつあるのかなと思う。

高岡

あと、分析とか情報発信とかその他のチームが掲げたことをみんながやっているから、テーマがある中でみんながやりやすいのかなとも思う。

蓮川

外池さんが大きさに、「え、こんなことやるの」みたいなことを言ってる、それをやってみたら上手くいっちゃったみたいなのがプラスに働いている。そういうところではあの人も勝負師だと思って近くについて俺はすごい感

じるし、決断したらすぐ行動に移すところは「すげえな」って感じる。

-----逆に失ってしまったもの

高岡

練習をみんながいきいきやっている分、練習の一個のプレーの厳しさや迫力の部分では、古賀さん(前監督)までの時代の方が絶対に良かった。そういう部分を失ってしまったし、緩さが目に付くところではある。

蓮川

その古賀さんを知っている代が減っていけば減っていくけど、今まで当たり前だったことが当たり前じゃなくなる。それがプラスに働くかマイナスに働くかはわからないけど、少なからず去年までの基準で考えるとそこはマストの部分だったから、そこがなくなってしまうといいのかなとは思っている。今年は四年が真面目で、そこに対してのアプローチができてきているけど、今後来年とか再来年に新しい一年生が入ってきたときにどうなるのかなとは俺らでも話はしている。なんだかんだ外池さんは四年が変わったら変わったでその四年なりのチームを作ると思うか

-----四年ついで学年ついで

ら、そこはあんまり心配してないけどね。

蓮川 俺はすごいバランスがいい学年だと思ってる。

高岡 確かにそれはある。

蓮川 いろんな奴がいるの。それこそ大翼や学、岡田みたいに「しっかりバチっと、基準、THE基準」みたいな奴もいれば、俺とか小島とか隼平みたいに、オフのスイッチが入ってる方が長いけど、やる時はやるよって選手もいるし、平岡とか春日みたいに上手くその中間でバランスを取ってくれる人もいるし。俺は部活が初めてだから、学校と部活がリンクして、私生活で起きたことでも寮と一緒に解決したりっていう、そういうことをやってみたい学年だなんて思う。

高岡 そんな感じかな笑

確かにバランスはいいと思うし、役職を決める時もその人の個性とか性格をそれぞれの役割に当てはめて、その分、その人にちゃんと任せられるから、全体的に横断して誰かがやらなき

やいけないということがない。本当にその部分では任せられるから楽だし、そういう部分では俺らの学年は真面目だから、すごい楽。厳しくするところは厳しくするし、岡田とか相馬がダメな時はみんなで厳しく言っているから、うわべだけじゃなくて厳しいことも言い合えるいい仲間だと俺は思う。

-----2人から見る主将岡田とは

高岡 まあ最初はどうなるかと思ったけどね(笑) ここまでくると頼れる(笑)

蓮川 なんだろうなあ。

高岡 自分の考えていることを人に伝えることがすごいまい。

蓮川 巻き込む力はすごいよね！

高岡 うん！

蓮川 あいつに何か言われたら納得しちゃうと思う。色々なところからワードを引っ張ってくるじゃん？ その言葉どこから拾ってきたの？みたいな(笑)

高岡 一見「何を言ってるの？」って感じだけど、実はその理由がしっかりしているから伝わるし。

蓮川 まあ二年の時とかは大変だったけどね。

高岡 まあ確かに二年の時とかどちらかというと問題児に入る部類だったからね(笑)

蓮川 間違いない笑

高岡 だけど去年の天皇杯の負けを機にあいつが覚悟を決めてキャプテンをやるって決めてくれて、俺らもそれを信じて、そこにチームみんなが乗ってきてくれて

いるから、本当に周りを巻き込む力は強くなって思う。俺らはそこに付いて行ってるだけだからね。

蓮川 あいつが一番変わり者だけだね、間違いない(笑)

高岡 周りに合わせないんだよね。誰とも一緒に行動をしない。誰かと風呂とか誰かとコンビニに行くとか誰かと飯いくとかもなくて、自分がやるって決めて行動している。

蓮川 大翼同部屋じゃん(笑)

高岡 そう、同部屋(笑) あいつは自分の中にタイムスケジュールがあるはず。

蓮川 そのタイムスケジュールを人に崩されたくないし、邪魔されたくないんだろ(笑)

蓮川

高岡

蓮川

高岡

蓮川

高岡

あとね、試合にかける熱が圧倒的にすごいと思う。おれが同部屋で感じることだけど、毎日、もう延々と2時間くらいストレッチをしているけど、試合の前日は俺も声をかけられないくらい集中しながらストレッチをしている。まあ何を考えているのかよくわからないけど（笑）でもそれで、困った時や苦しい時間帯にチームを救う点を取ったり、すごい勝負強かったりするから、あの集中力から来るんだろうなーって最近すごい感じる。試合にかける思いが全然違うんだらうね。

蓮川
-----来季のチームへ

今年の結果がどうなるかはまだわからないけど、俺らが新しくやってきたことをさらに発展させてほしい。例えばトレーニングを学生で作り上げてるところ。そこは俺がいなくなってもからも学生が中心となってやってほしいし、他にもそれぞれの役職で新たに今年からやってきた取り組みをさらに大きいものにしてほしい。

高岡

俺はね、今年やっていることを全部が全部引き継いでほしくない。今の俺らの学年と、来年四年生になる今の三年生の性格とか個性は全然違う。だからそれを今年上手くいったからといって全部引き継ぐと、逆にうまくいかないと思う。

蓮川
高岡

みんなが個性を集結させられるような土台作りやチーム運営をまた新たに作ってほしい。それが勝つための一番の方法なのかなっていうのを最近思うかな。

蓮川

成功例みたいにはしなくていいかもね。三年生以降も今年に入ってから変わった選手ってめちゃくちゃ多いからね。二年生だって「こいつら大丈夫かな」と思ってたけど、夏くらいから試合に出るやつ、Aチームに関わるやつが増えてきて、二年生内での意識も変わったし、三年も「ヤバイなー」と思っていたけど、大桃中心に変わってきているし。だから俺は正直心配してない、あいつらサッカー上手いしね（笑）

-----応援してくださる方々へ

高岡

今年チームを立ち上げる時から強い早稲田を取り戻したいと思ってきた。その結果の一つとして関東リーグ優勝を掲げていたから、その目標に近づくことができているのは、今まで歴史を築いてきたOBの方々や、支えてくれた人がいるからだ。四年になってすごい思う。だからしっかりと優勝していい報告をしたいと思います！

蓮川

もう土台ができているからチームのことは心配してない。あとは日々のトレーニングにしっかりと取り組めば必ず結果はついてくるなって確信している。個人的にだけと来年以降どうなるかはわからないけど、蓮川雄大戻ってきたぞと皆様にお見せしたいと思っている。それに対して関東リーグに来てくださる方も注目していただけたらなっていうのはあるかな。早稲田はまずは絶対優勝します！